

勅授

四八九十三

立案 昭和七年七月十日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長



宗秩寮總裁



宮内事務官

故海軍大將 枡内曾次郎 位階
追陞，件

昭和七年七月十日
臺帳記入 七月十日官報報告済

宮内省

十五

1-2

新編、
故海軍大將枘内曾次郎位階

昭和七年七月十二日
内閣總理大臣子爵齋藤實



大正...
立...
...



故海軍大將枘内曾次郎位階

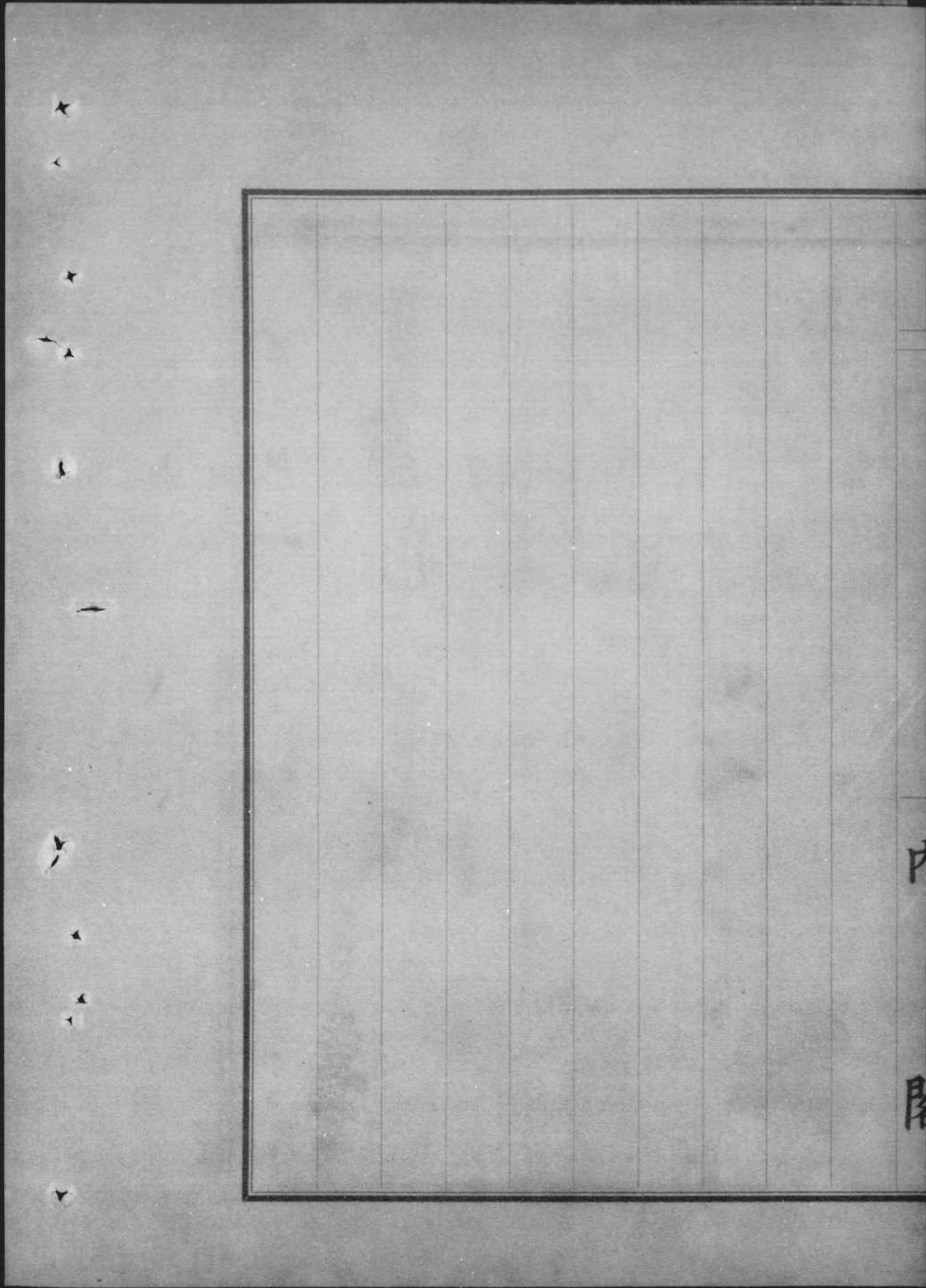
追陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和七年七月十二日

内閣總理大臣子爵齋藤實





海位 第一二六號

起案 七年七月十二日

裁可 七年七月十一日
決定 年 月 日
施行 年 月 日

内閣總理大臣

海

内閣書記官長

内閣書記官

故海軍大將正三位勳一等功四級栢内曾次郎ハ別紙海軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候處七月十二日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通位階追陞件上奏相成然ルヘシ

内閣

故海軍大將正三位勳二等功四級栢内曾次郎特旨ヲ以テ位一級追陞セラレ

正三位勳二等功四級栢内曾次郎

叙従二位

七月十二日付

敘從二位

海軍大將正三位勳一等功四級栲内曾次郎

右者明治十六年海軍出身以來軍職ニ在ルコト
實ニ四十三年其ノ間中央當局トシテ將又海
上ノ指揮官トシテ常ニ軍務ニ鞅掌シ功績甚
大ナリ就中日獨戰役ニハ第二艦隊司令官
トシテ青島並南洋方面ニ策動シ戰功アリ
大正六年海軍次官ヲ拜命シ在任三年餘時
恰ニ世界大戰ニ際シ帝國海軍ハ第二特
務艦隊ヲ地中海方面ニ特派シテ聯合國
作戰ニ協力セシメ又浦塩方面ノ形勢逼迫シ
テ第三艦隊ヲ同方面ニ派遣シ陸軍、西伯利

海軍

亞出兵迄ニ至ル間、浦塩附近一帯ノ安寧
秩序、維持、在留邦人並與國臣民ノ保護
ヲ相當ニ更ニ大正八年ニハ對獨平和條約締
結ニトアリ一方内ニテハ海軍擴張ノ議起リ
所謂八八艦隊ノ基礎ヲ確立スル等内外極
メテ多端ナル間ニ處シ終始大臣ヲ補佐シテ銳
意軍政、衝ニ當リ着々トシテ其ノ實績ヲ
擧ケ大正九年八月以降第一艦隊司令長官
兼聯合艦隊司令長官、佐世保鎮守府司令長
官、軍事參議官等ニ親補セラレ克ク衆望
ヲ負ヒ國軍、統率、教育、向上ニ盡瘁シ軍
事上ニ貢獻シタル功績洵ニ大ナルモ、アリ大
正十三年豫備役編入後モ常ニ各種ノ國家的

諸問題、研鑽ニ努カシ在郷海軍軍人ヨリ成
ル有終會、理事長トシテ會員ノ指導誘
掖ニ奔走シ近ク又貴族院議員ニ勅選セ
ラレ其ノ卓越セル識見ト手腕トハ衆人
ノ齊シク期待シ居リタル所ナルカ不幸今回
病ニ罹リ七月十二日死去候ニ付テハ特別
御詮議ヲ以テ頭書ノ通位一級被追陞
度

右謹

奏ス

昭和七年七月十二日

海軍大臣岡田啓介



海軍

今 四 十 五 年	五月一日	員被仰付 帰朝被仰付 九月七日帰朝
今 四 十 五 年	十月一日	補吾妻艦長
今 四 十 五 年	十一月一日	任海軍少將
今 四 十 五 年	二月十六日	補海軍省軍務局長兼海軍將官會議之員 兼一英國倫敦於海戰法規會議開致之際 事門委員之職之奉之盡力不尠依之金杯一箇賜之
今 四 十 五 年	七月九日	臨時制度整理局委員仰付之
今 四 十 五 年	七月二十日	事務簡捷調査委員長被仰付
今 四 十 五 年	四月二十日	補練習艦隊司令官
今 四 十 五 年	五月一日	橫須賀鎮守府附被仰付
今 四 十 五 年	五月三十一日	補大湊要港部司令官
今 四 十 五 年	十一月一日	補橫須賀海軍工廠長
海 軍		
大 正 三 年	五月二十九日	任海軍中將
大 正 三 年	八月十八日	補第二艦隊司令官
大 正 三 年	八月三十日	佐世保艦隊司令官(艦手)
大 正 三 年	今日	獨國ノ開戦
大 正 三 年	十月一日	補第一艦隊司令官
大 正 三 年	十二月一日	補第四艦隊司令官
大 正 三 年	八月六日	補第三艦隊司令官
大 正 三 年	十一月七日	大正四年戦役ノ功ニ依リ勲一等旭日大綬章 及金三千圓ヲ授ケ賜フ
大 正 三 年	十一月十三日	補海軍技術本部長兼海軍將官會議之員
大 正 三 年	十一月十七日	補高等捕獲審檢所評定官
大 正 三 年	九月一日	任海軍次官
大 正 三 年	今日	敘高等官一等

海軍																						
今七年						今八年						今九年										
今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	今	
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
兼補臨時海軍建築部長	鐵道會議之員被仰付	臨時外交調查委員會幹事被仰付	聯合國經濟會議決議實施委員會被仰付	港灣調查會委員被仰付	海軍治罪法改正調査委員長ヲ命ス	戰時船舶管理局評議員被仰付	補海軍將官會議之員兼臨時海軍建築部長	海軍有所管事務政府委員被仰付	高等捕獲審檢所評定官被免	國勢調査評議會評議員被仰付	任軍需次官	都市計畫調査會委員被仰付	九月十三日	官有財産調査會委員被仰付	九月十五日	海軍有所管事務政府委員被仰付	七月三十一日	改正四位	六月四日	法規整理委員會委員ヲ命ス	八月十五日	道路會議之員被仰付
九月七日	九月十日	今	九月一日	十月一日	十月十五日	十一月五日	十一月八日	五月十八日	六月一日	六月十九日	六月三十日	七月一日	七月十二日	八月十六日	二月二十三日	五月十五日	五月十八日	六月三十日	七月一日	七月十二日	八月十六日	
臨時海軍建築部長	鐵道會議之員被仰付	臨時外交調查委員會幹事被仰付	聯合國經濟會議決議實施委員會被仰付	港灣調查會委員被仰付	海軍治罪法改正調査委員長ヲ命ス	戰時船舶管理局評議員被仰付	補海軍將官會議之員兼臨時海軍建築部長	海軍有所管事務政府委員被仰付	高等捕獲審檢所評定官被免	國勢調査評議會評議員被仰付	都市計畫調査會委員被仰付	海軍有所管事務政府委員被仰付	官有財産調査會委員被仰付	海軍有所管事務政府委員被仰付	臨時產業調査會委員被仰付	國勢院參事被仰付	海軍委員會委員被仰付	海軍有所管事務政府委員被仰付	都市計畫中央委員會委員被仰付	軍需評議會評議員被仰付	任海軍大將	

昭和七年	三月十五日	任不	首獲院令第一條第四號ニ依リ首獲虎議員ニ任不
	三月十五日	特旨ヲ以テ位一級被進	
	三月十五日	千五百六拾貳圓ヲ給與ス	
	三月十五日	銃正三位	
今十三年	二月二十五日	豫備役被仰付	大正十一年勅令第四百七十九號ニ依リ金壹萬六
今十二年	六月一日	補軍部參議官	
今十一年	七月二十日	補佐世保鎮守府司令長官	
今十年	八月二十日	銃正三位	
今九年	十月一日	兼補聯合艦隊司令長官	大正四年及九年戰役ニ對獨平和條約等締結ノ功ニ依リ金五千三百圓ヲ賜フ
今十年	三月二十三日	杯一箇ヲ賜フ	第四國勢調査事業ニ関シ盡力勤カラス依テ金
今十年	八月二十四日	補第一艦隊司令長官兼聯合艦隊司令長官	依願免本官(次官)

海軍

海秘人第二〇〇號

昭和七年七月十二日

海軍大臣岡田啓介

内閣總理大臣子爵齋藤 實殿



故枋内海軍大将叙位，件別紙上
奏書進達不

海軍

(海軍省)

裏面白紙

四八九ノ一

故海軍大將正三位勳一等功四級 枡内曾次郎

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

昭和七年七月十二日

正三位勳一等功四級 枡内曾次郎

敘從二位

昭和七年七月十二日

右之通 宣下相成候條此旨及傳達候位記並

辭令ハ追テ可及回送候也

昭和七年七月十二日

宗義家總執事時山石殿

海軍大臣

宮内省



丙
四七七

一 改海軍大將正三位勳一等功四及 枋内曾次郎
右位記竝辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和 七年 七月十三日

宗義家總裁手前若殿敬

海軍大臣

佐部 原田海軍中佐來向
昭不 二月十三日

宮 内 省

裏面白紙